

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610410502		
法人名	医療法人 鴻伸会		
事業所名	グループホーム合歓の木		
所在地	徳島県阿南市新野町西馬場3-3		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①グループホームのスローガンである「笑顔満開」を目標とし、職員、利用者様共に笑顔で日々過ごせるよう努力しています。また安心した第二の家庭環境を、利用者様、ご家族様に提供できる事を目指しています。</p> <p>②自立支援の観点より、利用者様、個々それぞれの出来ることを見つけ行って頂けるように心がけています。</p> <p>③日中、夜間、1日を通し、水分摂取量をしっかり確保出来るよう声掛け、提供を強化しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近隣に小学校や商店街、公共施設が立ち並ぶ地域のなかに位置している。理念に“笑顔 満開”を掲げ、利用者一人ひとりが、毎日笑顔で楽しく過ごすことができるよう取り組んでいる。感染症(コロナ等)の流行下においても、リモートや窓越しでの面会を実施し、利用者と家族との関係性の継続に努めている。少人数で利用者の馴染みの場所へドライブへ出掛け、思い出話をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。利用者のその時々々の身体状況や意向を把握し、一人ひとりができることを見出し、自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者のその日の状態に応じて、食事や水分の形態を工夫し、24時間体制で1日に定められた水分量を摂取できるよう、健康管理にも努めている。同一法人の運営する併設の協力医療機関と連携し、適切な医療の受診を支援し、家族等の安心につなげている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中の特に「尊厳のケア」よりGHの理念「笑顔満開」を作り、日々利用者様の笑顔構築に向け努力している。	事業所では、開設当初からの“笑顔 満開”という理念を大切にしている。利用者とともに理念の貼り絵を作成し、ホール内に掲示して、共有化を図っている。利用者一人ひとりにあわせた支援により、笑顔につながるよう全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	小学生の訪問交流、音楽、ダンスのボランティア、祭りの神輿見学、フロア内での浦安の舞の踊りなど、地域行事に日常的に参加していたが、昨年より、コロナの影響できていない。	事業所では、地域の行事に参加したり、近隣の小学校と交流したりしている。感染症(コロナ等)の流行下においては、少人数で事業所周辺の散歩に出かけた際に、地域住民と挨拶を交わすなどして、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症の人への理解、支援方法を地域の人に伝えていたが、コロナの影響で開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、実践報告など行い、改善に向けご意見を貰い、職員間で話し合い新しい取り組みをしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、事業所の取り組みや活動内容を記載した議事録と“ねむの木便り”を各委員や家族に送付している。電話や直接得た意見は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はコロナの影響で、書面のみで活動内容等のお知らせを送付、包括支援センター、市主催の勉強会に参加し情報交換している。	事業所は、感染症の流行に伴い、文書で実績報告等を行っている。管理者は、少人数で開催される市や地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、担当者と直接情報交換を行い、協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスに身体拘束についても話し合いの時間を作り、皆で勉強している。	事業所では、2か月に1回、身体拘束に関する勉強会を開催している。玄関の施錠について、カンファレンス等でも検討を重ねている。声かけや見守りにより、開錠時間を設けるなど、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、日頃より職員間で話し合いをしている。言葉遣い、対応等の見直しも常時行い、事例等を用い、定期的に勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、積極的に権利擁護に関する制度の勉強会に参加し利用者様家族を支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文書、口頭で必ず説明し、改定等が有れば、面会時、家族会で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年よりコロナの影響で開催出来ていないが、年2回開催している家族会で、参加者全員にアンケートを配布、ケアプラン説明時に、要望を伺い、サービス改善を図りケアに生かす様にし、運営推進会議で報告を行っている。	事業所では、感染症の流行下において、対策を講じ、リモートや窓越しでの面会を行い、家族等から意見や提案を聞いている。また、定期的なねむの木便りに加え、個別に写真付きのお便りを送付したり、電話で状況を報告したりして、意見を引き出している。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンス、定期的な職員面接での職員の意見、提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	管理者は、カンファレンス等で職員の意見や提案を聞いている。個別にも意見を聞く機会を設けている。法人内でネットワークを利用し、情報の共有や相談をすることで、時間のロスや管理者の負担軽減につなげている。出された意見や提案は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する事を推奨し、利用者との触れ合いに生きがい、やりがいを見つけられる様、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で業務をカバーしながら、積極的に研修に参加出来る環境を作り、知識、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、研修会参加、同グループ内施設職員と交流、意見交換を行っている。又、ケアマネネットワーク会議にも参加し情報を収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までに、本人、家族に何度か会い希望の把握に努め、スムーズな利用を目指している。利用初めのうちは特に声掛けし、リラックスして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えを伺い、それに添ってケアをする、又、主介護者だけでなくその他の家族からも話を聞き信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内の他部署と連携を図っている。家族からの相談内容に添ったケアプランを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯畳み、お盆拭き等、利用者様のできる事を見つけ、少しの援助でできる役目を増やしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、外出、面会をお願いしていたが、コロナの影響で面会に制限がある為、こまめに連絡を入れ、家族に相談し、意見を頂いたり、個人個人、別々の写真付きお便りを送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのドライブなどで、利用者の町や自宅、思い出の場所に出掛け話題にしている。	事業所では、感染症の流行に伴い、リモートや窓越しでの面会を行っている。年賀状のやりとりを支援したり、少人数で馴染みの場所へドライブに出掛けたりして、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の把握に努め、毎日出来るだけ交流出来るよう支援し、作品作りなども、共同制作し、交流出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じ、相談、支援を行っている。又、入院された方には入院先の相談員、家族に状態を聞き、可能な限り、グループ内施設での受け入れ先の提供が出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望は日々の生活の中での会話で把握し、家族に相談しながら意思決定に添ったケアや援助に努めている。	職員は、利用者との日頃のかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、声かけやアプローチをした際の表情の変化や言葉から、本人本位に検討している。気づいたこと等は、個別記録に記載・共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話の聞いたり、家族の面会時に出来るだけ情報収集し、個人カルテに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル、食事量、水分量、排泄のチェックをしている。状態変化は援助記録に記載し、気になる事、特変は家族様に連絡、相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、職員がそれぞれ意見を出し検討し、ケアに生かす様に勤めている。計画見直し時期に関係なく状態により計画の見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族等の意見・要望を踏まえた介護計画を作成している。職員の気づきや個別記録の情報も、計画に取り入れている。日頃の生活のなかでモニタリングを行い、身体状況に即した計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の日誌の確認、送りノートにそれぞれが気づき等記載し確認を徹底し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の、状態、状況、変化に応じ、専門病院の受診対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り行事への参加、見学をして頂いたり、ボランティアによる演芸鑑賞、近所の神社へ散歩に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の在宅療養支援診療所と連携し、日々の心身状態の把握に努めている。また受診の際の情報提供を本人、家族の求めに応じ丁寧に対応している。	事業所では、利用者や家族等の希望する医療機関の受診を支援している。同一法人の運営する併設の医療機関と連携し、2週間に1回の訪問診療や必要に応じた往診の体制を整備している。専門医の受診は、家族等と連携し、臨機応変に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師、訪問看護師に日々の情報、気づきを伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の富士医院と連携し、入院先の病院地域連携室の相談員と密に情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明に加え、重度化した場合、終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合う。家族と主治医の話し合いの場を設けている。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認している。家族や医療関係者等と話しあい、対応方針の共有化を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット事例の書面化による危険の再認識、カンファレンスで職員間で対応方法を確認している。マニュアルを目のつきやすい場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についてカンファレンスで話し合い、災害時の連絡方法を書面化し、事務所内に掲示している。また、もしも、に備え、シュミレーションを心がけるようにしている。	事業所では、災害対策についてカンファレンスで話しあい、緊急連絡方法等のマニュアルを作成している。マニュアルを事業所内に掲示し、シュミレーションに努めているが、消防署等の協力を得て、実践的な避難防災訓練を行うまでには至っていない。	今後は、消防署等の協力を得て、年2回、火災や地域で起こりうる災害等を想定した実践的な避難訓練に取り組まれない。職員や利用者で、実際に取り組むことで、災害時の避難方法がさらに身につくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し、個人個人の性格、特徴に合わせ、優しく丁寧な声掛けを行う様心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、その人に応じた声かけやプライバシーに配慮した支援に努めている。随時、利用者の様子(状況)にあわせて、声のトーンを変えるなど、工夫している。勉強会やカンファレンス等でも話しあい、職員間で意識の共有化を図り、サービスの質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、話しやすい環境作りに努め、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をし、思いや考えをお聞きしている。又、自己決定や意思表示を見逃さない様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り規則正しい生活を元に、個人個人の体調に合わせ、望まれる1日の過ごし方を大切に、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、カット、希望者には毛染めも施行している。化粧される方は、職員が見守り、援助を行う。毎日の洋服に付いても本人と相談し選んでいる。化粧品も希望者には購入援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りを行い、和やかに食事が楽しめるようにし、同時に食事状況を把握している。食後の、お盆や、テーブル拭きを手伝って頂いている。	事業所では、事業所内の厨房で調理した食事を提供している。毎日、利用者の状況に応じて、食事形態を工夫している。菜園で採れた季節の野菜を取り入れたり、行事食や誕生日に特別な献立を用意したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。利用者の何気ない一言から、ドライブスルーを利用して、ハンバーガーを購入するなど、個別の希望にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を増やしてはいけない方、糖尿病の方の食事量を調節したり、個々に合った、食事形態、トロミ、ゼリーの使用、夜間の水分をペットボトルで居室に準備する等、一人ひとりの状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし一人ひとり口腔ケアをして頂いている。ご自身で出来ない方は職員が援助している。夕食後、義歯を預かり消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表で排泄の時間や尿量を確認、把握し早めのトイレ案内、個々にあったパットの使用を行っている。下着類の上げ下げも出来るだけご自身で行って頂いている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、その人に合わせて、ポータブルトイレ等を活用するなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品を積極的に摂取して頂き、体操に取り組んでいる。便秘時は腹部や、肛門部周辺のマッサージ、も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望、体調に合わせて入浴日や部分浴への変更も随時行っている。部分浴やシャワー浴になることもある。世間話、歌を歌うなどしながらゆっくり湯船で温まって頂く。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応じて、同性介助等、臨機応変に行っている。湯船につかることが難しい利用者には、足浴とともにシャワー浴を行うなど、温まることができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応でその日のリズム、夜間帯の状況を把握し、安心の休息になるよう援助に努めている。自宅での習慣の配慮も心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の確認と、申し送りノートでの処方薬の変更を確認し、状態変化に気をつけている。服薬援助時、薬袋の氏名、日時確認、薬は袋から出して手渡しし飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の趣味、本人の好む仕事を見つけ、個人個人に合った気分転換をして頂いて。趣味が生かせるよう作品展示をしたり、おやつ作り、保存食作りをして頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に外出の機会を設けている。ドライブを含め、車内から楽しんで頂く事もある。近くへの散歩も(コロナ前は)日常的に行っている。	事業所では、気候の良い日に、少人数で事業所周辺の散歩に出掛けている。感染症の流行下においても、近隣の紫陽花の名所にドライブに出掛け、車中から花見をするなど、季節に応じた外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望と、家族の了承のもと、代理で買い物に行き担当者が、金品の支払い、管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛ける援助をしたり、家族からのハガキ、写真をファイルに綴じたり、飾ったりしている。郵便物の差出の援助もしている。又、毎月のお便り以外に個別に状況等をお知らせするお手紙も郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵、手造り作品を掲示している。季節の草花を飾ったり、絵を掛け替え季節感を演出している。換気もこまめに行い、雨季の除湿、冬場の乾燥に、気を付けている。	共用空間は、日差しが差し込み、明るい。壁面には、利用者と職員で作成した貼り絵等の作品を掲示し、季節感がある。空調管理や換気、アルコール除菌等に気を配り、感染症対策にも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを置き、横になったり、気のあった利用者を近く席する、車椅子の出入り等も考え、席替えも行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と、家族の意見を大切に、本人の好きな物を飾ったり、家族から送られた写真やハガキをいつも見れるようにしている。	居室には、入居時に利用者や家族等と相談し、使い慣れた馴染みの家具や思い出の調度品、写真等を持ち込んでもらっている。利用者の好みに応じて飾りつけを行い、居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは電動が多く、体への負担を軽減している。必要に応じ、エアーマット、センサー等導入し安全な環境作りを心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中の特に「尊厳のケア」よりGHの理念「笑顔満開」を作り、日々利用者様の笑顔構築に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学生の訪問交流、音楽、ダンスのボランティア、祭りの神輿見学、フロア内での浦安の舞の踊りなど、地域行事に日常的に参加していたが、昨年より、コロナの影響でできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症の人への理解、支援方法を地域の人に伝えていたが、コロナの影響で開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、実践報告など行い、改善に向けご意見を貰い、職員間で話し合い新しい取り組みをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はコロナの影響で、書面のみで活動内容等のお知らせを送付、包括支援センター、市主催の勉強会に参加し情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスに身体拘束についても話し合いの時間を作り、皆で勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、日頃より職員間で話し合いをしている。言葉遣い、対応等の見直しも常時行い、事例等を用い、定期的に勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、積極的に権利擁護に関する制度の勉強会に参加し利用者様家族を支援した。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文書、口頭で必ず説明し、改定等が有れば、面会時、家族会で説明を行っている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年よりコロナの影響で開催出来ていないが、年2回開催している家族会で、参加者全員にアンケートを配布、ケアプラン説明時に、要望を伺い、サービス改善を図りケアに生かす様にし、運営推進会議で報告を行っている。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンス、定期的な職員面接での職員の意見、提案を聞く機会を設け運営に反映させている。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する事を推奨し、利用者との触れ合いに生きがい、やりがいを見つけられる様、支援している。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で業務をカバーしながら、積極的に研修に参加出来る環境を作り、知識、技術の向上を図っている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、研修会参加、同グループ内施設職員と交流、意見交換を行っている。又、ケアマネネットワーク会議にも参加し情報を収集している。					

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までに、本人、家族に何度か会い希望の把握に努め、スムーズな利用を目指している。利用初めのうちは特に声掛けし、リラックスして頂けるよう努めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えを伺い、それに添ってケアをする。又、主介護者だけでなくその他の家族からも話を聞き信頼関係を築くよう努めている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内の他部署と連携を図っている。家族からの相談内容に添ったケアプランを提供している。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯畳み、お盆拭き等、利用者様のできる事を見つけ、少しの援助でできる役目を増やしていく。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、外出、面会をお願いしていたが、コロナの影響で面会に制限がある為、こまめに連絡を入れ、家族に相談し、意見を頂いたり、個人個人、別々の写真付きお便りを送付している。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのドライブなどで、利用者の町や自宅、思い出の場所に出掛け話題にしている。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士の把握に努め、毎日出来るだけ交流出来るよう支援し、作品作りなども、共同制作し、交流出来るよう支援している。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じ、相談、支援を行っている。又、入院された方には入院先の相談員、家族に状態を聞き、可能な限り、グループ内施設での受け入れ先の提供が出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望は日々の生活の中での会話で把握し、家族に相談しながら意思決定に添ったケアや援助に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞いたり、家族の面会時に出来るだけ情報収集し、個人カルテに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル、食事量、水分量、排泄のチェックをしている。状態変化は援助記録に記載し、気になる事、特変は家族様に連絡、相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、職員がそれぞれ意見を出し検討し、ケアに生かす様に勤めている。計画見直し時期に関係なく状態により計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の日誌の確認、申し送りノートにそれぞれがが気づき等記載し確認を徹底し、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の、状態、状況、変化に応じ、専門病院の受診対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り行事への参加、見学をして頂いたり、ボランティアによる演芸鑑賞、近所の神社へ散歩に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の在宅療養支援診療所と連携し、日々の心身状態の把握に努めている。また受診の際の情報提供を本人、家族の求めに応じ丁寧に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師、訪問看護師に日々の情報、気づきを伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の富士医院と連携し、入院先の病院地域連携室の相談員と密に情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明に加え、重度化した場合、終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合う。家族と主治医の話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット事例の書面化による危険の再認識、カンファレンスで職員間で対応方法を確認している。マニュアルを目のつきやすい場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についてカンファレンスで話し合い災害時の連絡方法を書面化し、事務所内に掲示している。また、もしも、に備え、シミュレーションを心がけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し、個人個人の性格、特徴に合わせ、優しく丁寧な声掛けを行う様心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、話しやすい環境作りに努め、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をし思いや考えをお聞きしている。又、自己決定や意思表示を見逃さない様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り規則正しい生活を元に、個人個人の体調に合わせ、望まれる1日の過ごし方を大切に、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、カット、希望者には毛染めも施行している。化粧される方は、職員が、見守り、援助を行う。毎日の洋服に付いても本人と相談し選んでいる。化粧品も希望者には購入援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りを行い、和やかに食事が楽しめるようにし、同時に食事状況を把握している。食後の、お盆や、テーブル拭きを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を増やしてはいけない方、糖尿病の方の食事量を調節したり、個々に合った、食事形態、トロミ、ゼリーの使用、夜間の水分をペットボトルで居室に準備する等、一人ひとりの状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし一人ひとり口腔ケアをして頂いている。ご自身で出来ない方は職員が援助している。夕食後、義歯を預かり消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表で排泄の時間や尿量を確認、把握し早めのトイレ案内、個々にあったパットの使用を行っている。下着類の上げ下げも出来るだけご自身で行って頂いている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品を積極的に摂取して頂き、体操に取り組んでいる。便秘時は腹部や、肛門部周辺のマッサージ、も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望、体調に合わせて入浴日や部分浴への変更も随時行っている。部分浴やシャワー浴になることもある。世間話、歌を歌うなどしながらゆっくり湯船で温まって頂く。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応でその日のリズム、夜間帯の状況を把握し、安心の休息になるよう援助に努めている。自宅での習慣の配慮も心がけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の確認と、申し送りノートでの処方薬の変更を確認し、状態変化に気をつけている。服薬援助時、薬袋の氏名、日時確認、薬は袋から出して手渡しし飲み込みを確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の趣味、本人の好む仕事を見つけ、個人個人に合った気分転換をして頂いている。趣味が生かせるよう作品展示をしたり、おやつ作り、保存食作りをして頂く。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に外出の機会を設けている。ドライブを含め、車内から楽しんで頂く事もある。近くへの散歩も(コロナ前は)日常的に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望と、家族の了承のもと、代理で買い物に行き担当者が、金品の支払い、管理を行っている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛ける援助をしたり、家族からのハガキ、写真をファイルに綴じたり、飾ったりしている。郵便物の差出の援助もしている。又、毎月のお便り以外に個別に状況等をお知らせするお手紙も郵送している。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵、手造り作品を掲示している。季節の草花を飾ったり、絵を掛け替え季節感を演出している。換気もこまめに行い、雨季の除湿、冬場の乾燥に、気を付けている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを置き、横になったり、気のあった利用者を近くの席する、車椅子の出入り等も考え、席替えも行う。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と、家族の意見を大切に、本人の好きな物を飾ったり、家族から送られた写真やハガキをいつも見れるようにしている。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは電動が多く、体への負担を軽減している。必要に応じ、エアーマット、センサー等導入し安全な環境作りを心掛けている。					